

令和元年度普及活動検討会（外部評価）実施結果

農業技術課

第1 目的

本県における協同農業普及事業の実施状況及び普及指導計画に設定した課題の解決に関する進捗状況並びに結果等について、客観的な評価を得て、今後の効率的・効果的な普及活動に反映させる。

第2 評価委員

区分	委員名	所属・役職等
民間企業	星野 康人 (委員長)	ホシノ・アグリコミュニケーション研究所 代表
学識経験者	松下 秀介	国立大学法人筑波大学 生命環境系 教授
マスコミ・消費者	児玉 洋子	日本農業新聞 農政経済部 論説委員
農業関係団体	安田 則夫	茨城県農業協同組合中央会 県域営農支援センター センター長
先進的な農業者	浜野 博士	茨城県農業経営士協会 会長
若手・女性農業者	金田 弥生	茨城県女性農業士会 会長

第3 検討・評価内容

1 主要な普及指導計画の評価

- 各農林事務所経営・普及部門、地域農業改良普及センターが策定する農業改良普及指導計画書のうち、主要な普及指導計画に定められた成果目標の達成状況について、農業改良普及指導計画書及び普及指導活動実績書（事前にとりまとめた概要書を含む）を評価委員あて提示し、評価を受ける（事例報告実施所属を対象とする）。

2 活動検討会における評価

- 茨城県における普及活動の概要及び各農林事務所経営・普及部門、地域農業改良普及センターの普及指導体制と活動事例に対して、検討会での報告をもとに、評価を受ける。

(1) 日時

令和2年1月29日（水）9：45～16：20

(2) 開催場所

農業総合センター 2階 大研修室（笠間市安居3165-1）

(3) 活動事例報告の内容及び箇所

ア 技術開発・普及の一体的取組

農業総合センター専門技術指導員室

イ 国際競争力に対応できる継続的発展が可能な普通作産地の育成

県西農林事務所坂東地域農業改良普及センター

ウ 新たな流通に対応した加工・業務用野菜産地の育成

県央農林事務所経営・普及部門（水戸地域農業改良普及センター）

エ 産地を担う経営体の育成

鹿行農林事務所経営・普及部門（鉾田地域農業改良普及センター）

オ 地域水田経営の安定

県南農林事務所つくば地域農業改良普及センター

(4) 参集範囲

普及活動検討会評価委員

農業政策課，産地振興課，農業経営課，販売流通課，農林事務所，農業総合センター 等

第4 主要な普及指導計画の評価結果一覧

所属名	課題番号	課名	課題名	内部評価結果	外部評価結果※							
					A	B	C	D	①内部<外部	②内部=外部	③内部>外部	
水戸地域農業改良普及センター	水1	経営課	(重点) 地域農業を支える経営感覚に優れた担い手の確保・育成	B	3	3	0	0	50%	50%	0%	
	水2		高品質自給飼料の生産・利用による足腰の強い畜産経営体の育成	A	6	0	0	0		100%	0%	
	水3	地域一課	(重点) 新たな流通に対応した加工・業務用野菜産地の育成 (事例発表課題)	A	5	1	0	0		83%	17%	
	水4		ハウス軟白ねぎ産地の育成	B	1	5	0	0	17%	83%	0%	
	水5		春メロン産地の維持・発展	B	0	6	0	0	0%	100%	0%	
	水6		オリジナル米の品質・収量の安定化と販売促進	C	0	3	3	0	0%	50%	50%	
	水7		飼料稲等を活かした水田農業経営の確立	B	0	6	0	0	0%	100%	0%	
	水8		商工・観光と連携したウメ産地の育成	B	0	6	0	0	0%	100%	0%	
	水9		コギク産地の活性化	A	5	1	0	0		83%	17%	
	水10		地域二課	(重点) 持続可能なニラ産地の育成	B	0	6	0	0	0%	100%	0%
	水11	競争力のある高品質レンコン産地の育成		B	0	6	0	0	0%	100%	0%	
	水12	活力ある果樹産地の育成		B	2	4	0	0	33%	67%	0%	
	水13	多様な人材が活躍できる園芸産地の育成		B	3	3	0	0	50%	50%	0%	
	水14	地域三課		(重点) 消費者に信頼される干しいも産地の育成	B	2	4	0	0	33%	67%	0%
	水15			地域農業を支える担い手の包括的な育成	A	5	0	0	0		83%	
	水16	稲作産地の振興と維持	B	1	5	0	0	17%	83%	0%		
鉾田地域農業改良普及センター	鉾1	経営課	(重点) 産地を担う経営体の育成 (事例発表課題)	A	5	1	0	0		83%	17%	
	鉾2		地域農業を支える女性農業者等の育成	B	0	6	0	0	0%	100%	0%	
	鉾3		水田経営安定化のための飼料用米等の推進	B	1	5	0	0	17%	83%	0%	
	鉾4	地域一課	(重点) 収益性の高いメロン産地の育成	A	6	0	0	0		100%	0%	
	鉾5		収益性の高いイチゴ産地の育成	A	6	0	0	0		100%	0%	
	鉾6		良食味ミニトマト産地の育成	A	6	0	0	0		100%	0%	
	鉾7		カンショ大産地の持続的発展	A	6	0	0	0		100%	0%	
	鉾8		地域二課	(重点) 持続的なピーマン産地の振興	A	6	0	0	0		100%	0%
	鉾9			ピーマン産地におけるGAPの推進と担い手の育成	A	6	0	0	0		100%	0%
	鉾10			商品性の高い地域特産品目の産地育成	A	6	0	0	0		100%	0%
つくば地域農業改良普及センター	つ1	経営課	(重点) 都市型農業を支える担い手の育成	B	1	5	0	0	17%	83%	0%	
	つ2		消費者に信頼されるつくば型営農形態の推進	B	3	3	0	0	50%	50%	0%	
	つ3	地域一課	(重点) 地域水田経営の安定 (事例発表課題)	B	3	3	0	0	50%	50%	0%	
	つ4		6次産業化推進による経営の安定	B	0	6	0	0	0%	100%	0%	
	つ5		中核経営体による周年出荷ネギ産地の育成	A	6	0	0	0		100%	0%	
	つ6		地域二課	(重点) 地域水田経営の安定	B	0	6	0	0	0%	100%	0%
	つ7			地域ブランドトマト産地の維持とトマトの生産性向上	B	1	5	0	0	17%	83%	0%
坂東地域農業改良普及センター	坂1	経営課	(重点) これからの地域農業を支える新規就農者の確保と育成	A	6	0	0	0		100%	0%	
	坂2		良質自給粗飼料の確保と環境に配慮した畜産経営の推進	A	6	0	0	0		100%	0%	
	坂3		経営感覚に優れた農業者の育成と強い農業の基盤づくり	A	6	0	0	0		100%	0%	
	坂4		地域農業を支える女性・加工農業者の育成	A	6	0	0	0		100%	0%	
	坂5	地域一課	(重点) 実需者ニーズに応える「小回りの利く」大規模露地野菜産地の強化	A	6	0	0	0		100%	0%	
	坂6		優良なトマト産地と経営体育成	B	0	6	0	0	0%	100%	0%	
	坂7		レタス中心の露地野菜経営の安定化	A	6	0	0	0		100%	0%	
	坂8		米の新たな販売先に対応する大規模普通作経営体の育成	B	0	6	0	0	0%	100%	0%	
	坂9	地域二課	(重点) 国際競争力に対応できる継続的発展が可能な普通作産地の育成 (事例発表課題)	A	6	0	0	0		100%	0%	
	坂10		水稻の多収栽培技術の導入による水田農業の体質強化	B	1	4	1	0	17%	67%	17%	
	坂11		販売戦略に基づく園芸産地の育成	A	6	0	0	0		100%	0%	
	坂12		道の駅直売所の販売力強化による地域農業の活性化	B	0	6	0	0	0%	100%	0%	
※評価委員6名のA～D評価個数を数え上げるとともに、①内部評価結果よりも外部評価結果が良かった評価割合、②内部評価結果と外部評価結果が一致した評価割合、③内部評価結果よりも外部評価結果が悪かった評価割合を算出								全体	8%	91%	1%	

今後の普及活動に反映させたい事項

(技術開発・普及の一体的取組)

1 先端技術の活用推進については、普及指導員が調整役となり、行政・民間・農業者等と連携し、導入コストに見合った生産性の向上が見込めるかなどを検証しながら取り組むこと。

- ・農業現場における先端技術の実証は、普及指導員が調整役となり、行政・民間・農業者等と連携して行い、現場ニーズに直結した実際に使える技術として実装していくこと。
- ・先端技術導入による経営改善効果等の試算には、最適営農計画作成システム「FAPS」など経営シミュレーションソフトが有効であることから、多くの普及指導員がデータ収集や分析の仕方などを習得し活用できるようにすること。
- ・スマート農業の推進にあたっては、それを構成する個々の技術（例：水田センサー、圃場管理システム、収量コンバイン等）導入について、経営規模、圃場条件、乾燥貯蔵施設等の整備状況など外部・内部条件を把握し、コストに見合った生産性向上が見込めるかなどを検証しながら進めること。
- ・効果的なスマート農業実現のためには、農地の集積・集約とともに基盤整備や圃場の大区画化が必須であるので、引き続き関係部署や関係機関と連携し取り組むこと。

(普及活動報告事例から)

1 加工・業務用野菜の産地づくりでは、最新の需要動向や現場の動きを捉え、品質や加工適性等実需者ニーズを的確に把握したうえで、技術指導や生産計画策定支援を行うこと。

- ・加工・業務用野菜の産地づくりは、最新の消費動向を把握しつつ、加工・業務用野菜の需要や現場の動きを捉え、関係機関と連携して推進すること。
- ・価格、定時・定量、安全・安心、品質・食味、加工適性（使い勝手の良さ）などの実需者ニーズを的確に把握したうえで、品種選定等の技術指導や生産計画の作成支援に取り組むこと。
- ・キャベツ巻き込み症状の改善や出荷時期拡大等、難易度の高い課題の解決については、現地調査や実証圃等のデータに基づいた指導を行い、必要な調査・研究は、試験研究機関や専門技術指導員と連携してスピード感をもって進めること。
- ・省力化や規模拡大を図るために有効な「機械化一貫体系」の導入については、高額な設備投資に加え更新投資も必要となることから、利益を上げるための導入条件等を明確にして進めること。
- ・大雨などの気象災害に強い産地づくりに向けて、これまでに組み立てた対策技術の普及と併せ、排水対策などほ場環境の改善に向けた意識啓発を図ること。

2 法人化を推進する対象については、地域の法人及び法人化を志向する経営体等の実態を把握したうえで選定し、法人化指導については、めざす経営の実現等法人化の目的を明確にした上で、必要に応じて専門家（税理士、社労士、司法書士等）や専門機関と連携しながら進めること。

- ・法人化を推進すべき対象の選定については、地域の法人や法人化を志向する経営体等の実態を把握し、法人化を図るべき経営規模等の目安を明らかにした上で実施すること。
- ・産地の担い手としての責務、農地の維持保全、人材育成など、農業者の法人化に伴い期待される役割があることから、これらについて考慮しながら普及活動を展開すること。
- ・普及センター内における法人化推進体制については、技術担当と経営担当がペアになるなど、チーム体制により総合的な支援が可能となるよう工夫すること。
- ・法人化の目的はめざす経営の実現にあるので、事業継承、規模拡大、6次産業化や正規雇用者の確保など法人化の目的を明確にしたうえで、指導を行うこと。
- ・法人化の指導にあたっては、経営データを基にした課題把握を行い、必要に応じて専門家（税理士、社労士、司法書士等）との連携や専門機関への紹介を行うなど、経営体が必要とする支援を計画的に行うこと。
- ・法人化後のフォローアップについては、農業者と信頼関係を築きつつ、民間との連携を取りながら対応するとともに、個々の法人が有する課題解決に向け、法人間のネットワークづくりについても検討すること。

3 地域水田農業を担う大規模普通作経営体の育成にあたっては、5～10年後の農業を取り巻く状況変化を見据え、農家との信頼関係を築きながら、実情に合わせた経営規模や生産費等の改善目標を設定すること。

- ・地域水田農業を担う大規模普通作経営体の育成にあたっては、少子高齢化や気候変動など、5～10年後の農業を取り巻く状況を見据え、地域の農業者とともに、持続可能な農業経営のあり方や今後の地域農業の方向性について検討しながら取り組むこと。
- ・実情に合わせた将来の経営規模や生産費等の経営改善目標について、農家との信頼関係を築きながら検討・設定し、SPDCAに基づく濃密なコンサルテーションを行うこと。
- ・圃場管理システム、収量コンバイン、水田センサーなど経営改善に有効な新技術の導入については、地域において技術の実証を行い、圃場条件、経営形態、経営内容などを勘案し、導入コストに見合う生産性の向上が図れるかどうかを検証しながら進めること。
- ・先進的な技術の普及と併せ、堆肥を用いた土づくり、除草剤の効果を高めるための水管理などといった基礎となる栽培技術についても、引き続き指導を行うこと。

4 パン用小麦のように、これまでに地域にない新品目を導入する際には、試験研究機関や民間等と連携しながら、市場だけでなく小売店や消費者等のニーズ把握を行い、マーケティングに基づいた売れる商品づくりを進めること。

- ・パン用小麦のようにこれまで地域にない新しい品目を導入する場合は、市場だけでなく小売店や消費者といったエンドユーザーのニーズ把握や競合商品の分析を行い、商品コンセプト開発等、マーケティングに基づいた売れる商品づくりに努めること。
- ・新品目導入に必要な圃場管理システムや土壌の炭素含有量マップ等新技術の実証・普及や、実需者との信頼関係をより強くするための品質データの共有等は、試験研究機関・専門技術指導員、民間等との連携により、効果的・効率的に進めること。
- ・生産者や圃場の増加に対応し、栽培管理を適切に行い品質の維持を図るためには、タンパク含量など品質評価上重要な指標を測定・数値化し、生産者へわかりやすく示すことが重要であり、そのための仕組みづくりを進めること。